



山ぼうし

—友愛・協調・責任—

山ぼうしは「立志の樹」といわれ正門脇の「山ぼうし小庭園」には『花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし』の碑(初代PTA会長の盛合聰氏揮毫)がある。

宮古工業高等学校 校報 第14号 2016.1.26

復興にかける思い

校長 及川晃貴

11月末までに3年生全員の進路が決定しました(前号既報)。これは、生徒たちの弛まぬ努力の賜物です。もちろん、教職員の的確な助言と保護者の協力、受け入れ先となる企業や学校があつてのことではありますが、何よりも3年生の皆が将来のビジョンを明確に掲げ、地道に実力を磨いてきたからこそ願いが叶ったものです。

過日開催された「受験報告会」(右記)で、建築大工職に就くS R君は「震災後、家屋再建に力を尽くす大工に憧れ、工業高校でさらに建築の楽しさを知って志望した」と語りました。配管工になるS T君は「震災復興に携わりたくて工業高校に入学したので、学んだ技術が生かせる職業を選んだ」と話しました。警察官になるK君は「震災の時に勇気づけてくれた警察官のように信頼される人になりたい」と決意を述べました。

今回の3年生は、5年前の東日本大震災の時に中学1年生でした。津波によって尋常でない経験をし、様々な困難に遭遇しながらも、地域に貢献できるスペシャリストになろうと工業高校を選び3年間学び通しました。後輩たちの「進路試験に向けて大事なことは?」という質問に答えて、「学校を休まないこと、普段からあいさつすること、部活動を続けること」だと明快に述べていました。実践に裏打ちされた先輩の言葉はさすがで、納得のいく話ばかりでした。メッセージをもらった後輩たちも、地元の復興とも向き合いつつ、自分の進路選択を進めていくものと期待します。

* * *

☆2月の主な行事☆

1.29(金)~2.3(水) 第4期定期試験(3年)

- 1(月) 安全の日、現場見学会(F2)
- 2(火) 推薦入学者選抜検査実施日(授業日)
- 4(木) 職業観・勤労観育成講座(2年)
2学年保護者進路説明会

5(金)~10(水) 第4期定期試験(1・2年)

- 13(土) 技能検定3級(旋盤・配管・シーケンス)
- 14(日) 技能検定3級(シーケンス)
- 17(水) 性教育・思春期ピアカウンセリング(2年)
- 18(木) 3学年出校日、大掃除
- 23(火) 数学検定(1年)
- 26(金) 卒業式準備
- 29(月) 卒業式予行、同窓会入会式

3.1(火) 卒業式

スクールカウンセラー来校日
3(水)、9(火)、19(金)

○「受験報告会」を実施

1月21日(木)、学科毎に全学年の生徒が一堂に会し、3年生から1・2年生に対し、進路達成に向けて取り組んだ内容を発表しました。

志望先決定の決め手や進路試験に向けたプロセスなどを、先輩たちが自分の経験を踏まえて具体的に伝えることで、後輩たちの適切な進路選択と早期達成に役立てるものです。

3年生たちは、1・2年生からの質問にも丁寧に答え、アドバイスとエールをおくっていました。



○鮭の町復興雪かき大作戦

普段お世話になっている地域の方々への恩返しとして、生徒会が音頭を取って雪かきボランティアを行いました。

今シーズン初の本格的な積雪となった1月19日(火)と、同じ週の22日(金)に、生徒会執行部、ボランティア委員、各部有志が、津軽石荷竹仮設住宅に出向いて雪かきを行ったもので、入居者の方々にたいへん喜んでいただきました。

今後も、積雪状況に応じて随時行います。



交通安全CM作品紹介

第11回高校生交通安全テレビCMコンテスト特別賞



出演は中村峻兼くん（建築設備科2年）と、ひいおばあちゃんの中村スエさん93歳。なお、ナレーターは武藤巽くん（機械科1年）でした。

『高齢者の視野は若い人の半分です』

(15秒)



ナレーション
「お年寄りの事故をなくしたい」



スエさんに峻兼くんの上げた手がどのあたりで見えるか教えてもらう場面。



ナレーション
「お年寄りの視野は若い人の半分です」



ナレーション
「あなたは見えてないかもしれません」

速報 祝 ラジオCM準優勝

東北民放ラジオ六社会（IBC岩手放送など）が主催する“高校生「Radioっていいね！」CMコンクール”の県審査結果が1月22日（金）に発表され、本校の「ラジオって、いいね！」が準優勝に輝きました。（優勝：盛岡一、3位：一関工）

本校のCMは、1月25日（月）から2月7日（日）の期間、IBCラジオのスポットCMで放送されます。触りを少しお知らせしますので、全編は是非ラジオでお聴きください。

ラジオって、いいね！

男子生徒1 <佐藤喜紀くん（電気電子科2年）>
「ラジオってさ、スマホがいいよ。聴きながら……。」
男子生徒2 <中村峻兼くん（建築設備科2年）>
「ラジオはさ、やっぱりラジオで聴くのがいいな。だって……。」
(30秒CM)

地区高校芸術展放送部門に参加

1月20日（水）～24日（日）、宮古市立図書館を会場に「第29回宮古下閉伊地区高校芸術展」が開催されました。本校は放送部門に作品8本を出品しました。そのうち「ひろや食堂」を紹介します。

『ひろや食堂』《H27NHK杯全国高校放送コンテスト出場》(8分)



宮古市津軽石。私たちの学校のすぐ近くに、ひろや食堂があります。



ラーメンだけでも10種類。添加物を使わない自家製の麺が自慢です。



ひろや食堂は木村広義さんと暢子さん夫婦のお店。

35年前、昭和55年に宮古工業高校のすぐそばにお店を開きました。



客「とても美味しいからね」
客「安いしね」
客「(店主の)人柄もいいし」

昼時は地元の人や復興工事の人で賑わいます。出前の注文も次々に入ります。



でも、ここにも2011年3月の津波は来ました。

店主「震災で家も食堂も全部なくなったからさ、ようやく定年退職になったなと思ってさ・・・」「67(歳)だもの」



店主「3か月くらい経ったらヒマでヒマで。それでまた食堂やるか、となった」

震災半年後、再建工事が始まりました。土地のかさ上げは自力で行いました。



食堂再開は2012年1月3日、震災299日目を迎えた最初のお正月でした。



店主「下宿屋やってたときの方がクルマ持ってきて、車検も済ませて『使ってくれ』って・・・」

店主「いろんな人から支援もらったから、やっぱりやんなくちやならねって・・・」



客(山本宮古市長)「被災した所に元気な食堂があると人が集まってくる」「美味しいもの食べると元気になるでしょ」「工業生も食べに来るでしょ？量たっぷりだから大満足だよ」

災害公営住宅視察後にひろや食堂に立ち寄った山本市長さんに取材敢行



ひろや食堂は、地元の人たち、宮工卒業生たちの心のよりどころです。

宮古市津軽石。私たちの学校のすぐ近くには、ひろや食堂があります。